

北海道豪雪過疎地域における広域的除排雪
ボランティア構築に関する実践的研究

他地域での除雪ボランティア経験が援助者自身の 地域社会への意識や考え方に及ぼす影響

- 中前 千佳（一般社団法人北海道開発技術センター）
- 伊地知 恭右（一般社団法人北海道開発技術センター）
- 小西 信義（北海道大学大学院文学研究科）
- 原 文宏（一般社団法人北海道開発技術センター）



『ボラベーション研究会』の活動の経緯

平成24年8月 『ボランティア活動による広域交流
イノベーション推進研究会』 設立



平成25年2～3月 『ボラベーション研究会』が雪はねボランティア
ツアーを開催(4地域 計6回、約200名が参加)



岩見沢市美流渡



岩見沢市美流渡



倶知安町



上富良野町



三笠市弥生地区



三笠市弥生地区

平成26年は9本の「雪はねボランティアツアー」を実施

今年は5地域、計9回の雪はねツアーを実施。
地域ごとにテーマを設定。
10代から70代まで幅広い年齢層が参加。
全ツアーの加者数は総勢約320名。

- ◆**当別雪はねツアー ～雪はねで企業研修～**
【日時】平成26年1月25日(土)、2月1日(土) 8:00～19:00
【場所】当別町みどり野地区
- ◆**岩見沢市美流渡雪はねツアー ～がっつり雪はね～**
【日時】平成26年1月26日(日)、2月2日(日) 8:30～19:30
2月22・23日(土・日)
【場所】岩見沢市美流渡地区
- ◆**上富良野雪はねツアー ～雪はね&地域交流～**
【日時】平成26年2月15日(土) 8:30～21:00
【場所】上富良野町
- ◆**三笠市弥生雪はねツアー ～企業と一緒に雪はね～**
【日時】平成26年2月8日(土) 8:30～17:30
【場所】三笠市
- ◆**倶知安雪はねツアー ～地域と一緒に雪はね～**
【日時】平成26年2月9日(日)、3月2日(日) 8:30～20:00
【場所】倶知安町琴和町内会、六郷親交会

ちよっと大変、でも心も体も暖まる雪国のお手伝い、してみませんか?
雪はねボランティア 札幌発2014 大募集!

除雪を通じて地域との交流を楽しむ雪はねボランティアを募集します! 汗を流したあとは、温泉や交流会を楽しみましょう。ちよっと大変、でも心と体が元気になる雪国のお手伝い、あなたもしてみませんか?

<当別ツアー> 雪はねで企業研修 実施日時 1/25(土)、2/1(土) 参加費 一人 各日3,000円	<三笠ツアー> 企業と一緒に雪はね 実施日時 2/8(土) 参加費 一人 1,000円
<上富良野ツアー> 雪はね&地域交流 実施日時 2/15(土) 参加費 一人 3,000円	<倶知安ツアー> 地域と一緒に雪はね 実施日時 2/9(日)、3/2(日) 参加費 一人 1,500円

※参加費は、食事、入浴、バス、保険、カーボンオフセット料を含みます。当ツアーで別にお支払いのCO2削減額をクレジットに充当させていただきます。

対 象 高校生以上(中学生以下は保護者同伴)
 募集人数 各ツアー限定30名 申込み先着順(最少参加人数 15名)
 募集時期 各ツアー一週間前の金曜日まで。
 お申し込み方法 参加される方全員の名各年齢性別、連絡先住所電話番号を、お電話でお申し込みください。

◎注意事項◎
 ・防寒具、手袋、長靴、帽子、保護鏡、飲み物、タオル、着替えなど
 ・雪はね作業により凍かかるとはありますが、特に足元の凍かき対策は万全に!!
 ・悪天候の発生による作業中止、危険な作業は行いません。
 ・スノーシューなどの防寒具はご用意ください。ご自身の持ち物で作業したい方はお持ち帰りしても構いません。
 ・参加費は発行します。(参加研究のスタッフが持ちます)
 ※当日の活動の様子を写真等で撮影し、ホームページ等に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

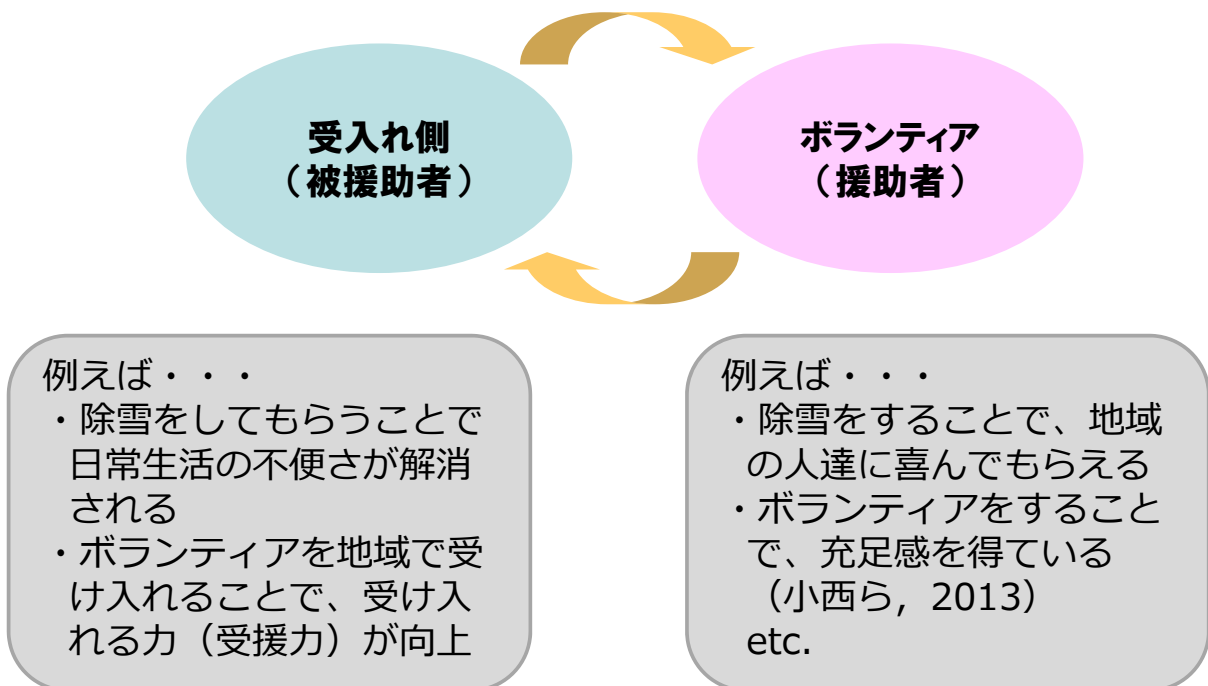
実行企画・実施 北海道中央バスグループ **経シイビーツアーズ** ☎011-221-0912

イベント運営 ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会
 〒001-0011 札幌市北区北11条52丁目2番1号セントラル札幌ビル3F(4F)
 一般社団法人北海道経済開発センター内 経シイビーツアーズ TEL:011-738-3366 E-mail:yukihane@econet.or.jp

雪はねボランティアツアー募集チラシ

研究の背景

広域的な除雪ボランティア活動においては、受入れ側（被援助者）とボランティア（援助者）とが相互に影響を及ぼし合い、それぞれの意識や行動にさまざまな変化が生じると考えられる





研究の目的

ボランティア（援助者）は、地域の課題を解決することで充足感を得ているが、ボランティアが得るものは、それだけでないのではないかと？

高齢過疎地域の現状を知り、その地域に住んでいる人々の暮らしを見ることで、**その人自身の「日常生活のあり方（行動）・考え方」**についても影響を及ぼすのではないかと？



そこで、本研究では、除雪ボランティアに参加したボランティア（援助者）が**「自身の地域社会との関係性・地域への考え方」**などにどのような影響を受ける**のか**を調査することを目的とする。

5



調査方法

●調査対象者

2014年1月～3月における「雪はねボランティアツアー」のツアー参加（323名）のうち現地集合を除いた札幌市発着のバス利用者211名。このうち、**調査に協力して頂いた方は171名（回収率81.0%）**であった。

●調査方法

バス移動中に、ボランティア参加者に対して、質問紙を配布し、質問紙に回答を記入直後、ただちに回収を行うという方法で行った。

●調査の設問

基本属性に加え、**「除雪ボランティア活動を通して、あなたの地域に対する考え方に変化がありましたか」**という設問について下記の6つの項目を設け、それぞれ、“そう思わない”～“そう思う”の5件法で回答させた。

●質問項目

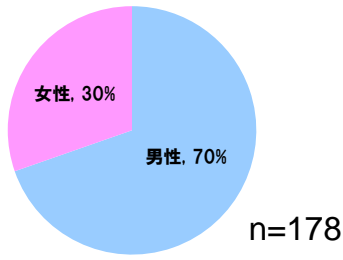
- ①今後、家族や近所の人を除雪を手伝う機会が増えると思う（**除雪機会の増加**）
- ②自分の住んでいる地域への関心が高まった（**地域への関心の高まり**）
- ③地域内のコミュニケーションを大切にしたいと思うようになった（**地域内コミュニケーションの重要視**）
- ④地域の行事などに参加しようと思うようになった（**地域行事への参加意欲向上**）
- ⑤地域内の協力が重要だと思うようになった（**地域内の協力行動の重要視**）
- ⑥自分の地域に貢献しようと思うようになった（**地域への貢献意欲の向上**）

6

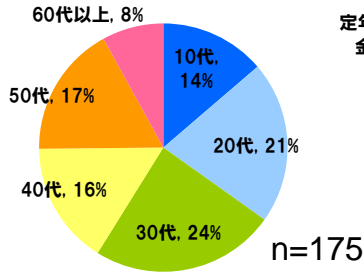
調査結果①

【参加者の属性】

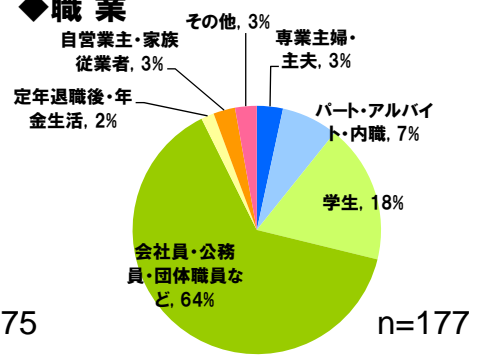
◆性別



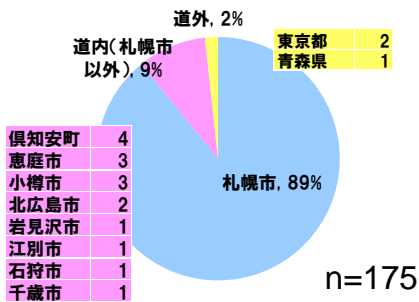
◆年齢



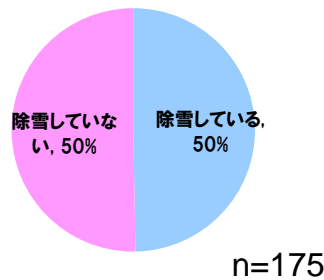
◆職業



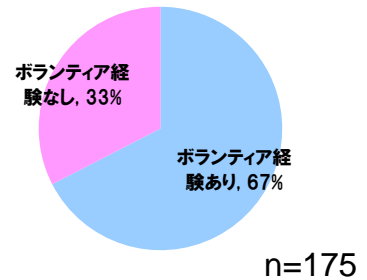
◆居住地



◆自宅の除雪



◆ボランティア経験

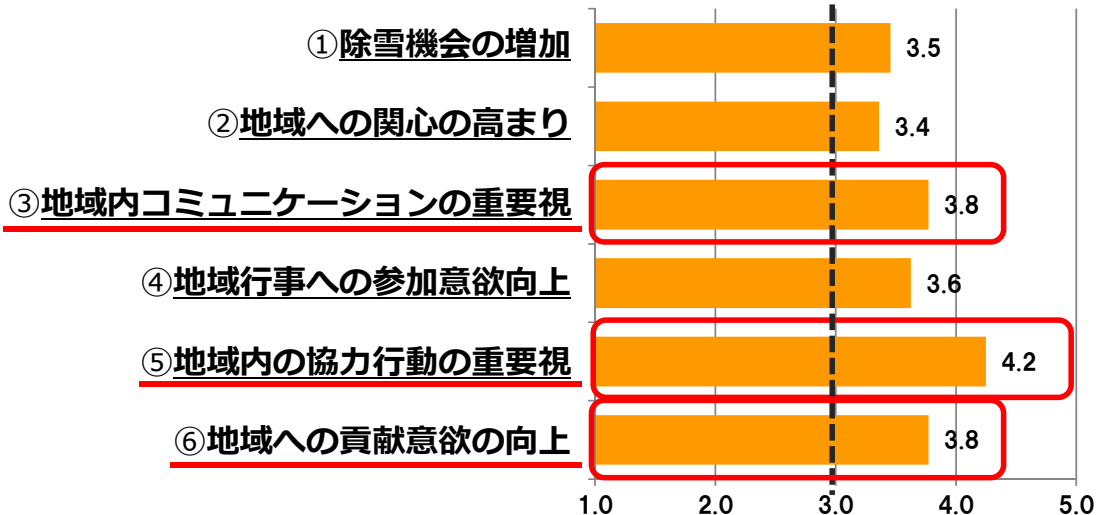


調査結果②

【除雪ボランティアを通して変化した地域社会への意識・考え方】

設問の**平均値が中位値の3.0より有意に高くなっていた**。これは、除雪ボランティア後に平均的に「変わった／変化を感じた」ことを意味している。特に「**⑤地域内の協力行動の重要視**」の平均値は**4.2**と**高い値**を示していた。

各設問に対して、5件法で回答
 1：そう思わない
 2：どちらかといえばそう思わない
 3：どちらともいえない
 4：どちらかといえばそう思う
 5：そう思う



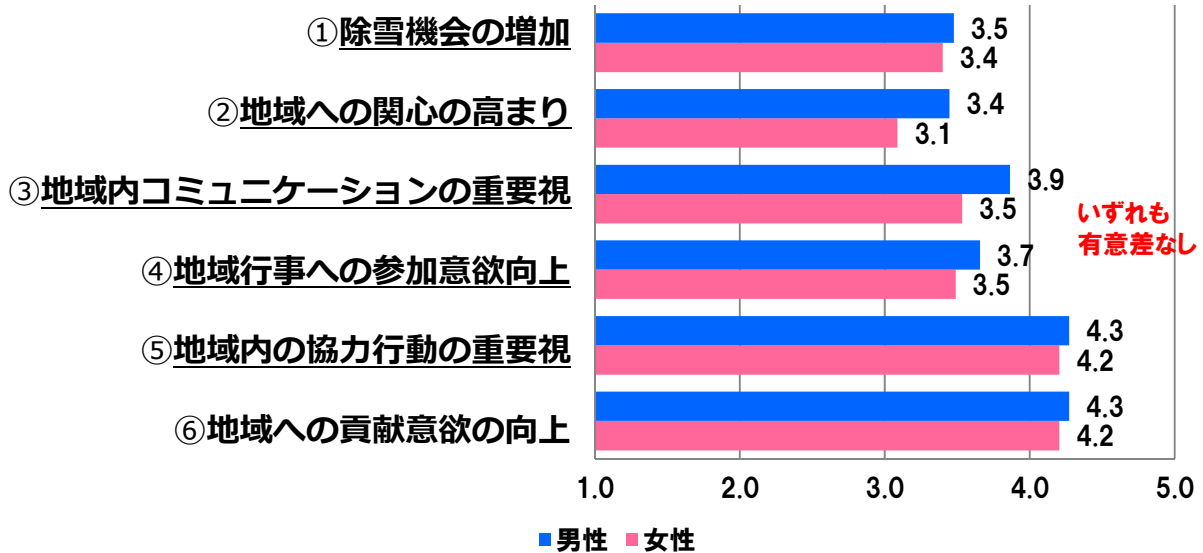


調査結果③-1

【除雪ボランティアを通して変化した地域社会への意識・考え方(男女別)】

いずれの項目も**男女で差はなし**

(ただし、女性よりも男性の方が平均値が大きい傾向あり)



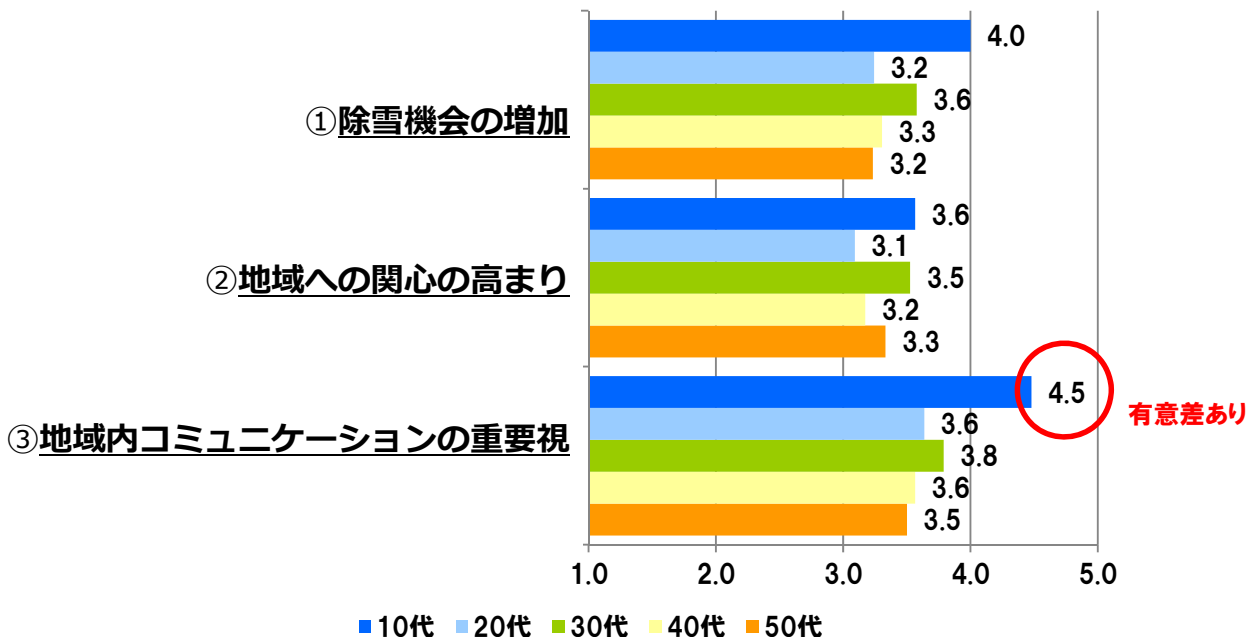
9



調査結果③-2

【除雪ボランティアを通して変化した地域社会への意識・考え方(年代別)】

10代が他の年代より「地域内のコミュニケーションを大切にしたいと思うようになった」**割合が高い**



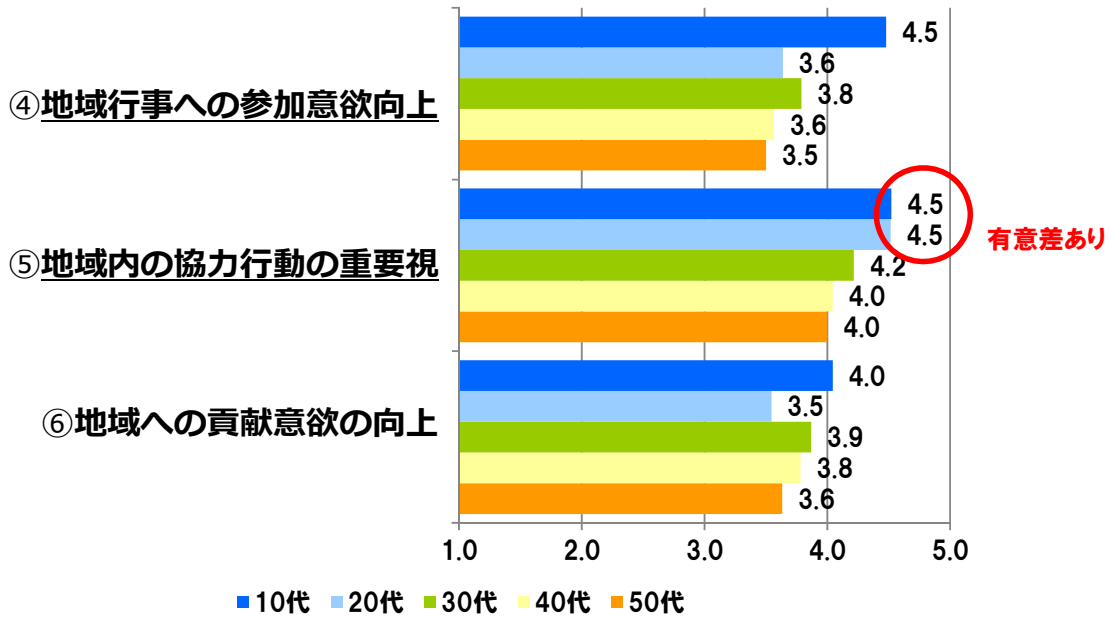
10



調査結果③-2

【除雪ボランティアを通して変化した地域社会への意識・考え方(年代別)】

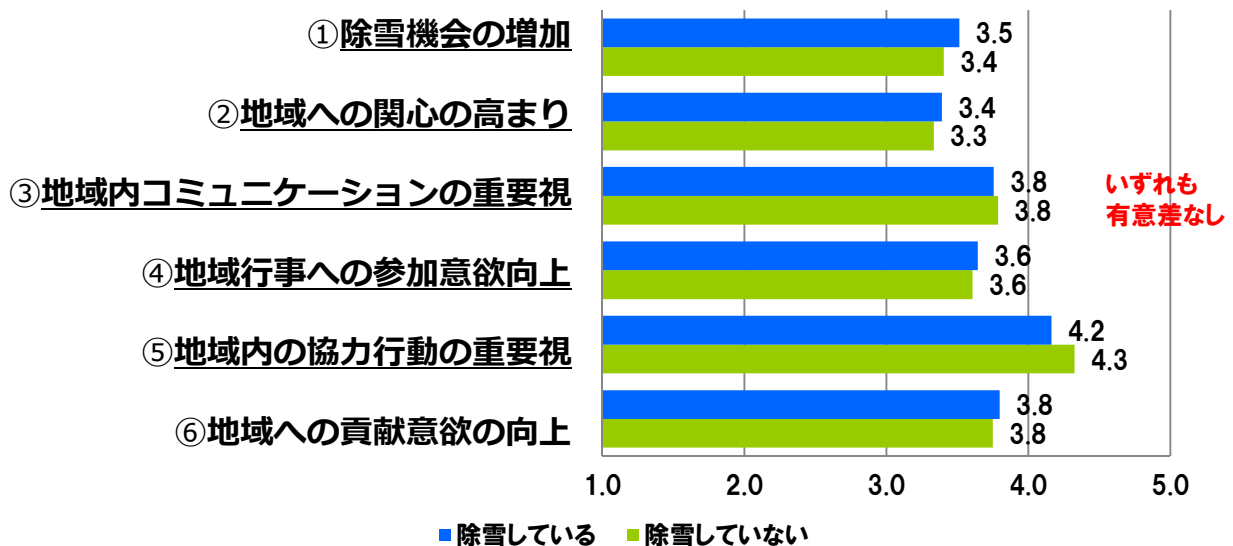
10代、20代が他の年代より「地域内の協力が重要だと思うようになった」割合が高い



調査結果③-3

【除雪ボランティアを通して変化した地域社会への意識・考え方(日常の除雪作業の有無別)】

いずれの項目も「除雪をしている人」と「していない人」で差はなし

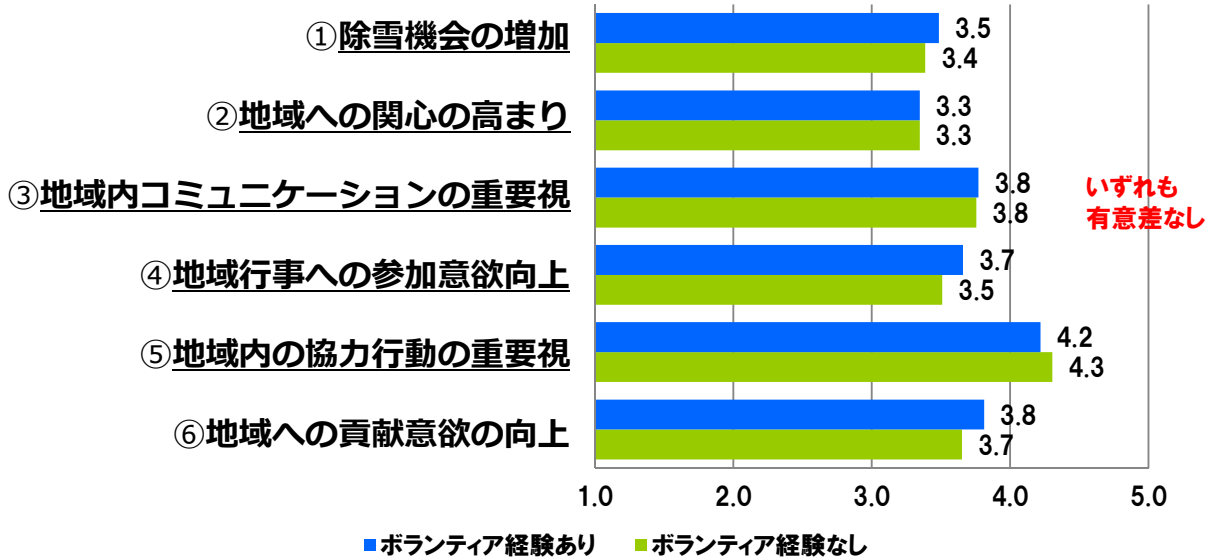




調査結果③-4

【除雪ボランティアを通して変化した地域社会への意識・考え方 (ボランティア経験の有無別)】

いずれの項目も「ボランティア経験あり」の人と「経験なし」の人で**差はなし**



13



参加者の声(自由回答)

初めて参加させて頂いたのですが、**もっと他の地域の人たちの役に立てるボランティアに参加してみたい**と思うきっかけにもなれたので、本当に今回は参加して良かったと思いました。



自分の両親が当別町並の豪雪地帯に住んでいる為**たまには帰省して除雪をしようかな**と思う。親孝行します。

(豪雪地帯の課題が)よその出来事ではなく、**自分やまわりにもふりかかることだ**と考えるきっかけになりました。



14

<結果のまとめ>

- 他地域での除雪ボランティアを通して、援助者自身の居住地域への関心や貢献意欲が高まり、特に協力行動への意欲が高まる可能性があることが分かった。
- 特に、10代・20代の若い世代が、他の世代よりも、「地域内のコミュニケーションを大切にしたい」、「地域内の協力が重要だ」と思うになっていた。

では、なぜ他地域での除雪ボランティアをすることで、援助者自身の居住地域への関心や貢献意欲が高まるのか？

- ⇒豪雪過疎地域といった他地域の課題に直接触れることで、自分自身の地域を振り返るきっかけになるのではないかな？
- ⇒さらに除雪ボランティアといった協力行動が地域の助けとなることに気づき、協力行動への意欲が高まるのではないかな？

15

まとめと今後の研究の方向性

- ①除雪ボランティア活動への参加は、他地域の人達を助けるだけでなく、自分の地域を振り返るきっかけとなる
 - ⇒他人に無関心な都心部の人達が地域活動に参加するきっかけづくり
- ②中高年よりも若い世代の方が除雪ボランティア活動により、地域への意識の変化が大きい
 - ⇒日頃、地域に関わりが薄く、地域のことを考えたことのない人の方がボランティア活動をきっかけに意識が変わる可能性が高い
 - ⇒高校生や大学生の課外活動や授業にボランティア活動を組み入れることの意義

<今後の研究の方向性>

広域的な除雪ボランティア活動の社会的意義や役割を明らかにし、広域的なボランティア活動を普及させる方策を検討する。

16